

鷹の目の狩人

VII

コレクションの始まり 競りと入れまで

しろはく古地図と城の博物館富原文庫
代表 富原 道晴

コレクションを始めようとした際に、まず、訪問するところは、古書であれば古書店、古書店の中でも専門店です。東京であれば神田や本郷、早稲田の古書店街、大阪では阪急古書のまち等です。古地図、版画、美術書、展覧会図録、古文書、各分野の専門書等、特長のある古書店が揃っています。

掛軸、陶磁器、絵画、武具、民具等であれば美術商や骨董商を訪ねます。価格破壊の切手や高騰する絵葉書には専門店があります。定期的に開催される催事場の即売会、神社、寺等で開催される露店の古書即売会、骨董市に行かれる場合もあります。これらは、例えば、東京では古書会館や富岡八幡等各地の会場で、殆ど毎週のように開催されています。大規模なものは東京ビックサイトの骨董ジャンボリー、平和島の骨董市、京都東寺の骨董市があります。

出るだけ多く、早く現地に到達し、物色する。慣れてくると希望するコレクションアイテムがどこに多く出されるか理解できます。ターゲットは多くの場合オンリーワンです。可能な限り、ライバルよりも早く現場に急行するのです。ベテランは開場一番に見て回ります。一般の方が来られる頃にはコレクターと業者さんが購入され、めばしいものは残されていません。露店の骨董市では朝が勝負で、昼頃には店じまいというところもあります。さすがに

1週間とか開催される祭事ではそのようなことはありませんが、めばしいものは初日に行かれたほうがいいようです。

骨董市では値引き交渉という駆引きに生きがいを見つけておられる方もいますが、それはあくまで業者さんが付けた価格を前提にしています。価格が

あって購入するかどうかが判断します。

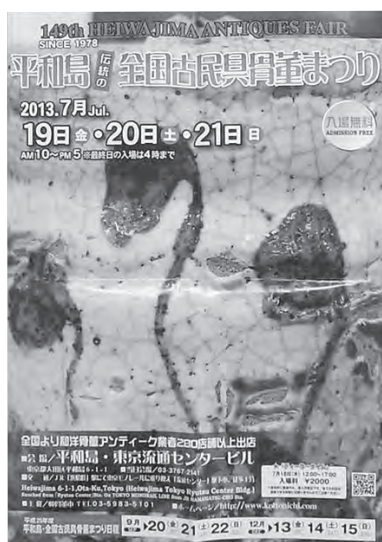
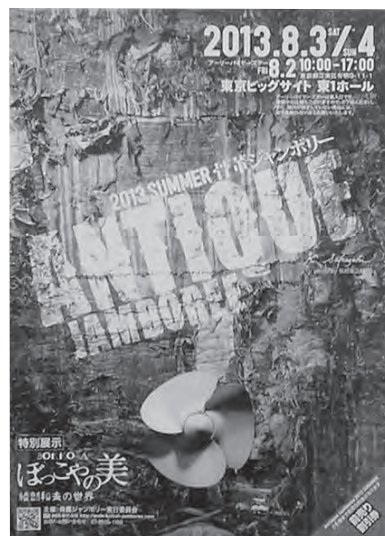
しかしです。骨董や貴重資料の世界には価格のないものがあるのです。オンリーワンですから、価格は購入者と所有者の価値観で決まるわけです。1万円で購入しようと、100万円で購入しようと、いくらでも決めてください、高いほうに

販売しますと言われたときに購入価格を自ら決める必要があります。入札では高額に入ればおそらく購入できますが、とんでもない価格で購入する場合もあります。

逆に、恐ろしいのは人より1円でも安ければ、その物は二度と手に入らないということです。貴重な資料を前にして、呆然とすることになります。この危険を回避するために、入札会では通常、2枚札とか、3枚札があります。1枚の入札用紙に価格を複数記入し、最高価格を記入した方がコレクションを得る事ができます。記入された価格の間にあれば、その上位の価格で入手でき、一番下の価格より上がなければ下位の価格で入手できます。一般には下に希望価格を記入し、上に安全価格を記入します。

一方、競りの場合は最後まであきらめなければ必ず購入できますが、ご承知の通り、絵画が数10億円、1枚の絵葉書が50万円ということに成りかねません。ネットオークションで購入される場合も最後まで頑張れば必ず購入できますが、冷静さがが必要です。価格のないものは魔物です。熱中すると周りが見えなくなります。競りに参加する人の判断力、価値観、審美眼が問われます。

ビジネスの世界でも、要求されるのは事業への鑑定力です。



CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH